

令和3年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の 目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 学校運営協議会より (3月4日実施)	総合評価 (3月23日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	○「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業実践とそのための授業改善を行う。 ○児童・生徒一人ひとりのニーズにあわせた教育を行う。 ○カリキュラムマネジメントの視点を踏まえ、教育課程の編成に取り組む。	①「主体的・対話的で深い学び」について本校の捉えを明確にし、教育活動に具体的に反映する。 ②児童・生徒の実態を校内で共有できるようにする。	①具体的な捉えや視点を整理し、それを反映させた指導案書式を用いた学習活動を行う。 ②部門や学部に応じ、校内共通の実態把握の方法を検討し整理する。	①「主体的・対話的で深い学び」の本校の捉えを整理できたか。 ②児童・生徒の実態把握の方法の整理を行えたか。	①「いいね！」と感ずる実践探し、研究テーマの視点に沿った指導案の書式作成や振り返りシートによる授業改善のための取組みを行った。 ②実態把握のために、発達検査、摂食チェックシート等を活用した。アセスメント結果を指導体制や学習設定に活用するなど、学部ごとに理解を深めた。	①学部ごとに授業改善の方法に取り組んだ。単元計画の作成や「主体的・対話的で深い学び」を引き出す授業案書式を使っている授業改善を深めていくことが課題である。 ②実態把握のための検査は、各学部・グループで使用しやすいものを利用し結果を関わるメンバーで共有した。	①達成意識が大きく上がったのは良かった。「主体的・」対話的で深い学び」に向けての「仕掛け」が示されているとわかりやすい。 ・現在の方向性を今後も継続発展させていくこと。 ・職員の達成感がうかがえる。	①「主体的・対話的で深い学び」に対する本校の捉えについての職員意識は、中間評価では77%の達成だが、年度末評価では88%となった。研究を進めながら職員の理解が高まってきた。 ②児童・生徒の実態の共通理解において、保護者の99%が満足という結果になった。	①2年目となる「主体的・対話的で深い学び」の研究であり、各学部の成果を校内で共有することや単元計画の作成や評価の視点を明確化することで、具体的な取り組みを進め、更に研究を深める。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	○きめ細やかな児童・生徒指導・支援の充実を図る。 ○教育活動全体で人権の視점에立った学校づくりに取り組む。	①担任と専門職等が連携した児童・生徒支援を行う。 ②情報共有を大切に、意見を言い合える風通しの良い職場環境を構築する。	①専門職等が学習設定に参加するシステムを構築する。 ②児童・生徒情報や校内でのイレギュラーな出来事を確実に報告・共有するシステムを構築する。	①専門職が学習設定に参加するシステムの構築ができたか。 ②児童・生徒情報の報告・共有が確実に行われるシステムを構築できたか。	①担任と専門職の連携では96%の達成となり、連携による児童・生徒支援は円滑に行われた。 ②児童・生徒支援チームを中心に、問題行動報告書の取組みや学校生活アンケートによるいじめの把握に取り組んだ。	①支援の更なる充実のため、担任が相談を活用した後、専門職によるフォローアップが必要である。 ②アンケートの回収率が上がらないことから、問題把握の方法の改善が必要である。	①支援は多角的に捉えていく中でより具体化し、課題も見つけやすくなる。 ②教員同士のブリーフィングも大切である。風通しよく、悩みを共有し相談しやすい環境づくりが有効と考える。	①専門職と担任とが連携した児童・生徒支援は、良好に行うことができた。 ②校内での事故を防ぐために、専門性を高める研修を重ねた。職員のモラルを高め、不適切な指導が起きないように、体罰・不適切な指導に関する研修を実施した。	①専門性を高める研修は、今後も継続して取り組んでいく。 ②児童・生徒のニーズに応え、障害に応じたきめ細かい対応が求められる。
3 進路指導・支援	○本人のニーズや適性に応じた、自己選択・自己決定のための継続した指導・支援に取り組む。 ○児童・生徒の自立と社会参加に向けた主体的な取組を支援する。	①進路支援に関する校内システムの整理に取り組む。	①小中高のつながりや、卒業後に及ぶ進路支援システムの整理を行う。	①進路支援システムの整理を行うことができたか。	①地域の事業所等を招いての福祉相談会は感染に配慮しながら工夫して実施した。進路ハンドブック、福祉相談会等の見直しを行った。	①コロナ禍を踏まえた保護者への情報提供について、冊子の工夫、インターネットの活用等を含め、あり方の検討を行う。	①社会情勢は流動的に捉えにくくなってきているが、将来の方向性はそれらをキープしながら進めていくことが常に求められる。	①コロナ禍において、あらゆる困難がある中、児童・生徒・保護者への進路支援は、安全に配慮しながら行った。	①高等部の進路支援については、確実な情報提供のための工夫が必要である。また、自立と社会参加に向けた学習の充実は、どの学部にも必要である。
4 地域等との協働	○学校と地域の双方で連携・協働するための組織的・継続的な仕組みを構築する。 ○地域における特別支援教育のセンター的機能としての取組を推進し、共生社会の実現に向け取り組む。	①感染等のリスクに対応し、安心安全な教育活動を実施する。 ②地域に貢献する教育活動や防災の取組を進める。	①安全に配慮し、オンライン等を含めた新たな交流の方法を構築する。 ②福祉避難施設の機能整備と地域に向けた発信を行う。	①新しい交流の方法を構築することができたか。 ②福祉避難施設の整備と地域に向けた発信を行うことができたか。	①巡回相談でアンケートを実施し、ケース会の方法の改善に取り組んだ。 ②防災をテーマとしたイベントを、PTA、企業、地域と連携して実施した。福祉避難施設開設に向け、話し合った。	①アンケート結果を踏まえ、地域の実態に即した教育相談を実施することが必要である。 ②福祉避難施設として茅ヶ崎市、寒川町と連携し課題整理を行う。	①例年との比較となるが、コロナ以前の学校の取組を再評価することにもなる。 ②自治会として、日頃から関わりが持てる取り組みが見出せると良い。	①地域の実態に基づいた支援やケース会の方法の確認ができた。 ②障害のある人々の防災について、本校を拠点とした避難施設を開設するための話し合いを行った。	①巡回相談等による地域学校への支援を更に充実させる。 ②福祉避難施設の開設、地域と連携した防災システムの構築に向け、課題整理を行う。
5 学校管理 学校運営	○地域と一体となった安全で安心な学校づくりに取り組む。	①外部機関と連携し、安全で信頼される学校づくりに	①警察・消防・福祉事業所、自治会等との連携を進	①地域各機関と連携し、安全な教育活動に取り組めたか。	①コロナ感染に関して、保健所や地域福祉事業所との連携を	①感染症の発生時に、保護者の要求する細かな情報発信に	①市役所や地域の資源を最大限活用し、保護者の孤立を防ぐ	①コロナ感染症についての連絡は、迅速に保健所、学校医等	①児童・生徒の命を守るための各種対応マニュアルの見直し

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の 目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 学校運営協議会より (3月4日実施)	総合評価 (3月23日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	○教員が子どもたちと向き合う時間を確保するために、職員の働き方改革を推進する。	取り組む。 ②誰もがわかりやすく、使いやすい教育環境・職場環境を構築する。	①め、情報の発信・共有を行う。 ②校内の整理、構造化、ICT化を進める。また、グループ業務の精選を行う。	②校内各所の整理と構造化やICT化を進めることができたか。	①深め、課題解決にあたった。 ②各グループの業務の整理精選は85%の達成、校内環境の整理の取組みは79%の達成であった。各学部で保管していた消耗品を一括管理とした。	①は人権尊重の観点から難しさがある。 ②グループ業務の精選85%の達成、校内整理は79%の達成であり、更に取り組みを進める。	①ことで、インクルーシブな地域支援が実現できると考える。 ②20年たち、建物も古くなってきた印象があり、今後、どうだったらいのか早めに課題を掴んでおくとよい。	①と連携をとり、情報発信に繋げた。 ②校内の整理には、担当するグループ等で意識をもって取組んだ。整理が進んだ部分と課題が残る部分がある。	①を行う。 ②各学部・グループ業務の精選や校内環境の整理は、継続して取り組む。